

中心拠点における自動車来街者の回遊行動を考慮した駐車場の利用実態に関する分析

長野工業高等専門学校 学生員 矢野 拓巳 長野工業高等専門学校 正会員 柳沢 吉保
長野工業高等専門学校 正会員 轟 直希 長野工業高等専門学校 学生員 宮之内 健斗
豊橋技術科学大学 浅野 純一郎 金沢大学大学院 フェロー 高山 純一

1. はじめに

市街地内には長野駅、長野電鉄を中心とした都市機能誘導区域が複数設けられている。しかし駐車場も多く点在し自動車による来街が最も多いのが現状である。

中央通りを全区間歩行者優先道路化することで歩行者の回遊行動を促進することが街づくりの目標の一つにある。中心市街地の駐車場位置を自動車の回遊性を損なわずに、通過する自動車交通量を減少させ、市街地内道路の自動車の混雑を解消させる必要がある。

本研究では自動車来訪者の回遊行動を明らかにし、それを妨げずに駐車場移設を行い、中央通りの混雑を緩和することが目的である。

駐車場利用者アンケート調査に基づき「訪問先から近い」と感じる距離を明らかにし、駐車場の適切な配置について検討している。しかしながら、自動車来訪者の回遊行動まで考慮した駐車場の配置までは分析を行った研究は少ない¹⁾。

本研究では、駐車場利用者を対象にアンケート調査を行った。自動車来街者の駐車場利用実態と回遊行動特性を明らかにする。

2. 分析対象路線と調査データ

(1) 分析対象地域の対象駐車場とネットワーク

分析対象地域の道路ネットワーク図を図1に示す。

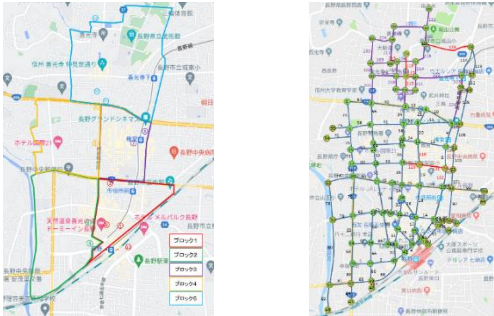


図1 分析対象地域図 対象地域の交通ネットワーク

長野市中心市街地を対象として5ブロックに分割する。13箇所の駐車場を対象として分析を行う。中心市街地の主要な道路にノードとリンクを付与した。

(2) アンケート調査概要

アンケートの調査項目を表1に示す。

表1 アンケートの調査項目

調査項目	
利用者の個人属性について	性別、年齢、職業・来街頻度
利用者のトリップ	来街地方・かかった時間・費用
駐車場の利用について	利用形態・利用頻度・利用目的・選択理由・探索方法
利用者の回遊について	立ち寄った施設・移動手段・滞在時間

これらの項目をそれぞれ駐車場利用者に質問した。

(3) 配布回収数

平日 1000 部、休日 2000 部、計 3000 部を配布し、732 部を回収、回収率は 24.4%であった。

3. 駐車場利用実態の基礎分析

(1) 駐車場利用形態

利用形態ごとの利用者数を図2に示す。

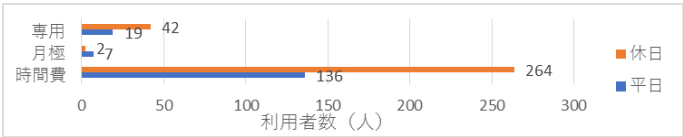


図2 利用形態ごとの駐車場利用者数

中心市街地に訪れた殆どの人は時間貸駐車場を利用している。月極駐車場の利用者に関しては、休日よりも平日に利用する来訪者が多い。

(2) 駐車場の利用頻度

利用形態ごとの駐車場利用頻度を図3に示す。

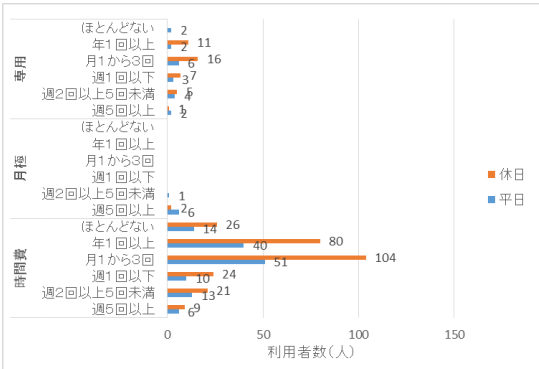


図3 駐車場の利用頻度

専用駐車場と時間費駐車場の利用者では、週1回ではなく月数回、年数回訪れる来訪者の割合が多いなど、同じような利用頻度になっている。一方、月極駐車場の利用者に関しては、少なくとも週2回以上は利用している。

(3) 利用者の出発地

来訪者の出発地を図4に示す。

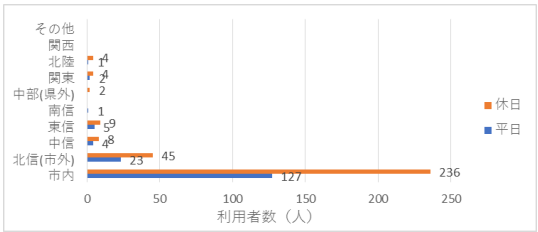


図4 利用者の出発地

多くが市内からの来街である。移動時間等の地理的要因から、南信よりは関東・北陸の方が多い。

4. 利用者の来訪目的と回遊実態分析

(1) 来訪主目的と利用駐車場の関係

主要目的施設の来訪者の利用駐車場のブロックごとの割合を表2に示す。

表2 主要施設と各ブロックの駐車場利用割合

主要な目的施設	位置するブロック	平日				
		各ブロックの駐車場利用割合(%)				
		1	2	3	4	5
MIDORI長野	1	90	10	0	0	0
ながの東急百貨店	1	97.06	2.941	0	0	0
長野グランドシネマズ	3	0	0	100	0	0
善光寺	5	0	50	0	0	50

主要な目的施設	位置するブロック	休日				
		各ブロックの駐車場利用割合(%)				
		1	2	3	4	5
MIDORI長野	1	92.59	7.407	0	0	0
ながの東急百貨店	1	100	0	0	0	0
長野グランドシネマズ	3	2.778	0	97.22	0	0
善光寺	5	8.333	0	0	25	66.67

多くの来訪者は、一番の目的の施設（主要目的施設）に近い駐車場を利用することが多いことがわかる。

(2) 回遊トリップ数と利用駐車場の関係

ブロックごとの回遊トリップ数の平均を表3に示す。

表3 ブロックごとの利用者の回遊トリップ数

ブロック	トリップ数の平均	
	平日	休日
1	1.33333	1.44545
2	1.41667	1.39286
3	1.17073	1.28205
4	1.66667	1.83333
5	1	2.29412

休日のトリップ数が多いことが分かる。また、東急など、機能の集合した施設が含まれないブロック4は、トリップ数が多い傾向が分かる。

5. 利用駐車場から来訪施設のトリップ長

(1) 利用駐車場から来訪主目的施設までのトリップ長

利用駐車場から主目的施設までのトリップ長を来訪目的別に集計したものを図5に示す。

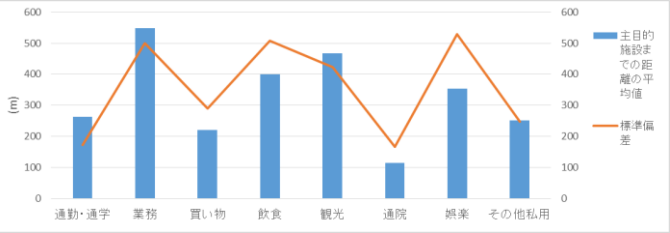


図5 目的別の駐車場から目的施設までのトリップ長

ブロックごとの主目的施設までのトリップ長を図6に示す。

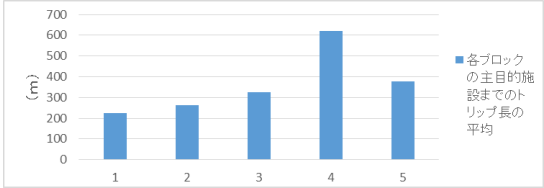


図6 各ブロックの主目的施設までのトリップ長

買い物や通院など、1か所で目的が済みやすいものは、トリップ長が短くなる傾向にある。また、ブロック4は、他よりもトリップ長が長くなっているが、業務や観光を目的とする利用者が多いためと考えられる。

(2) 利用駐車場から市街地内回遊トリップ長

ブロックごとの総トリップ長の平均を図7に示す。

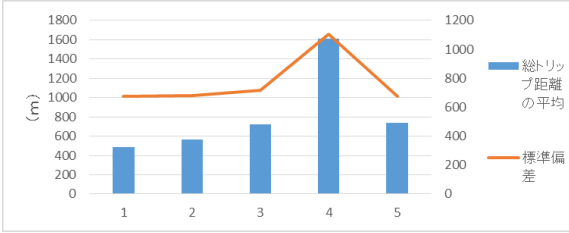


図7 ブロックごとの駐車場からの回遊総トリップ長

6. まとめ

(1)利用者は、一番の来街目的があり、そのニーズを満たす施設により近い駐車場を選んでいる。ブロック4の駐車場を選んだ来訪者は、回遊トリップ数が高ブロックよりも多い傾向にある。これは業務目的の利用者が多いこと、大門から善光寺にかけての買い物・観光目的の利用など、複数の施設の利用になることが多いことが原因と考えられる。一方、休日のブロック5は善光寺周辺の観光が多い為か、トリップ数が多くなっている。

(2)複数の目的を満たす施設に近い駐車場ほど、その利用者の回遊トリップ数は少なくなる傾向にあった。一方で遠い駐車場の利用者は回遊トリップ数が多い傾向であった。ただし、主要施設から遠い駐車場ほど利用者数が少なくなってしまう傾向があるので、駐車場を移設する場合は主要施設への移動距離が長くないようにする必要があると考えられる。

今後の課題として、主要施設に対する駐車場の位置と来訪及び回遊行動の関係を定量的に明らかにする。

<参考文献>

1)松原、松川、中出：中心市街地活性化から見た時間貸し駐車場のあり方に関する研究。都市計画論文集。Vol.55,No.3,pp243-249,2020.11